



みよた

みんなと仲よくする子ども
よく考え、ともに学ぶ子ども
たくましい子ども

<http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0710038>

文責 齋藤 和代

(ホームページからも「御代田小学校だより」がご覧いただけます。)

教育講演会・保護者の方の感想



12月3日(水) 京都大学名誉教授渡邊正己先生による教育講演会「放射線の影響について」の後に、保護者の方々から感想や質問が寄せられましたのでご紹介させていただきます。

熱心に講義を聴講いただき、ありがとうございました。

- 未だに、食べるものとか外での活動に少し不安に思っていました。テレビなどの情報を見ても理解できない難しい言葉ばかりで、スッキリしませんでした。講演を聴いて大げさに心配せず、日常生活を送って大丈夫なんだと安心しました。
- 専門用語などありましたが、とても勉強になりました。福島に住んでいて心配がないと言ったらうそになりますが、先生のお話を聴いて安心しました。
- 久しぶりに放射能の話聴いて、改めてたくさんの種類があり、身体に害がある物、無い物、自然界にも様々な放射能が存在していることが詳しくわかりました。
世界の自然放射線量の平均よりも郡山市の平均は下回っていたことに、少し安心しました。
- 本当の所、やはり難しかったように思いますが、最後に先生が「事故により子どもたちの体に影響がでる確率は少ない」とおっしゃっていたので安心しました。
- 3年以上前に幼稚園での講演会を聴いた時には理解できなかったことが、理解できたと思います。先生が「科学者は、今日言ったことが1年後に変わることはない」とおっしゃっていたのが、印象に残りました。私たちが正しい知識を得て、行動することが、いかに大事かということを改めて考えさせられました。
- ガンとの関連性については、予想通り無いとのこと、やっぱりと思いました。放射線について正しく理解し、気を付けるべきところは気を付けていきたいです。
- これまで、「放射線のことがよくわからない」という事がいろいろな不安の材料となり、どこまで、何に気を付けたらよいのかの判断に迷い、生活する上でストレスになることが多かったように思います。科学的な数値やデータなど、今の福島の現状を知ること、これからも子どもたちと気持ちを楽しんで暮らしていけるように感じました。
- 難しいお話なのかと敬遠しがちですが、実際にここで暮らす私たちにとっての健康の影響をわかりやすく図で示されたり実例を挙げてお話されて安心しました。親の気持ちが子どもに伝わるので、放射能について考えないようにしていました。しかし、外国に比べても低い数値でビックリしました。もっと多くの保護者の参加があると良かったです。

教育講演会・・寄せられた質問と回答



質問① 積算線量計の数値結果が家では3人姉妹で、下の子になるにつれ、数値が少しずつ高かったのですが、背の高さも関係するのでしょうか。

回答： 原理的には、地面からの放射線に被ばくするとすれば、身長が低いほど被ばくが多いということになります。しかし、ガンマー線はかなり遠い距離をとびますから、土壌に限らず、周辺の樹木、建物の未除染部など方々からの放射線に被ばくすることになりますから、10cm程度の身長の違い程度で、有為差のある被ばく量の差は生じないと思います。

ガラス線量計による測定値には、測定誤差が必ずつきもので、被ばく量は下二桁部を四捨五入して表されています。従って、 $0.1\mu\text{Sv}$ と報告された場合は、実は、 $0.05\sim 0.15\mu\text{Sv}$ の範囲にあることになります。

質問② 県外の友人から福島県のことをいろいろ聞かれるのですが、郡山のことばかりでも、他市町村のことは線量も取り組みも違うので、どう答えたらよいかわかりません。先生から見て、福島県はどういう状況にあるのでしょうか。友人にどう伝えればよいのでしょうか。また、各地で講演会をされている先生は、県外の人々の反応をどのようにお感じでしょうか。



回答： 福島全体を大ざっぱに俯瞰してみると、飯館村や双相地区の原発に近い地域のうち山側の狭い地域などを除けば、郡山市は、線量が比較的高い地域となります。その郡山市でさえも、先日、ご説明した通り、空中放射線量は $0.3\sim 0.4\mu\text{Sv}/\text{時間}$ 以上のところはほとんどなくなっています。加えて、通常の生活では、被ばくを受けにくい室内などで過ごす時間が長いため、空中放射線量から推測される被ばく量の $1/2\sim 1/3$ に留まっています。従って、事故によって放射性物質が降下し過剰の放射線量に加わっていることは間違いありませんが、その追加放射線量は、日本の各地で観測される自然放射線量の差（平均線量が一番高い県は岐阜県で平均 $1.2\text{mSv}/\text{年}$ 、低い県は神奈川県で平均 $0.8\text{mSv}/\text{年}$ です。）の2倍には達しない程度の量であると考えていいと思います。

世界にの自然放射線量と比較すれば、スウェーデンやフィンランド（ $8\sim 9\text{mSv}/\text{年}$ ）の $1/4$ 、フランスやスペイン（ $4\sim 6\text{mSv}/\text{年}$ ）の $1/3$ 程度で、健康に影響するレベル（ $>100\text{mSv}/\text{年}$ ）には遠く及ばないレベルです。

県外の方々の反応は、時間が経つにつれて急速に低下していることは間違いありません。実際、貴校で講演を行った翌日、東京で講演をしましたが、聞きにこられる人の多くは、「放射線は危ない」「福島の人達は危ないところに住まれている」という強い（恐らく科学的に間違った）認識を持った人が多いです。

そのため、一見、福島原発事故に対する思いは強いように思われがちですが、県外では、そうでない人の方が圧倒的に多くなっていると思います。こうした中で、福島の復興を確実に実現するためには、福島の方々が現状をしっかりと認識されて納得して強い決意を持って復興に取り掛かることが必須と思います。そして状況を強く発信されることが大事だと思います。

質問③ 生物が死ぬ放射線量のところで、ゾウリムシやアメーバの数値が高かったですが、(最近流行っている)飲むミドリムシをとることで、(人体への影響の)数値が変わったりすることは、ありますか。

回答： 放射線に強い小生物には、放射線影響を克服する能力があり、それを自分の体内に取り組めば放射線抵抗性を獲得できるか？という質問と受け止めます。しかし、そうしたことは、今のところ望めません。こうした小生物が放射線に抵抗性であることは間違いありませんが、それがどのように仕組みで発揮されるかは判っていないからです。それに、示したデータは、生き物が死ぬ線量（半数致死線量）の比較をしたもので、線量は、少なくとも自然放射線レベルの数千倍大きいですから小生物に放射線抵抗性成分が含まれていたとしてもほとんど効果は見られないと思います。

しかし、ビタミンC、ビタミンE、ポリフェノールやエピガロカテキンのような食品に含まれるラジカル捕捉剤は、放射線の致死効果を軽減することが知られていますので、ミドリムシの成分にもそうした働きがないとはいえません。

④ このまま、低線量の中で、ずっと生活をしていて何か影響はないのかと、時々考えてしまいます。

回答： 確かに事故によって、事故前より倍程度、被ばく量が増加している地域があることは間違いありません。しかし、それであっても、事故によって付加された線量は、日本人が一年に自然環境や医療によって被ばくする総線量の10～20%程度です。世界に目を向ければ フィンランドやスウェーデンに住む住民は、事故後の福島で観測されている被ばく量の4～5倍の被ばくをされています。しかし、その程度の放射線で健康に悪い影響が出ているということはないことを考えれば、福島で考えられる低線量被ばくは、人の健康に注意すべき影響を及ぼすことは、全く考えられませんのでご安心ください。



来週の予定

月 日	曜日	行 事	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12月22日	月	○第2学期終業式	4	4	4	4	4	4
23日	火	○天皇誕生日	・	・	・	・	・	・
24日	水	○冬季休業日	・	・	・	・	・	・
25日	木	○冬季休業日 ○子ども美術展 ～1月6日	・	・	・	・	・	・
26日	金	○冬季休業日	・	・	・	・	・	・
20日	土	○冬季休業日	・	・	・	・	・	・
21日	日	○冬季休業日	・	・	・	・	・	・